

【出題の意図と対策】

1 文学的文章(小説)の読解です。ここでは福田隆浩の『熱風』を題材に、登場人物たちの関係や、心の動きを読み取ります。小説を読むときには、できるだけ登場人物の立場に立って、その境遇や心情に寄り添いながら読むようにしましょう。そのうえで、それぞれの設問について、何が問われているのか、選択肢などに明確な根拠があるかどうかを確認しながら解答していきましょう。

【解答】

- ① d むしよう e くず(れる)
- ② イ
- ③ X 誤った発音だらけ
- Y 中山の母親
- ④ ウ
- ⑤ 例 自分と組んでダブルスの試合に出てほしいと心の底から強く願っている(32字)
- ⑥ ア

【解説】

- ② ポイント《慣用句の正確な知識があるかどうか》
「埒があかない」は、「物事が順調に進まず、滞ってしまう」という意味です。「埒」は、馬場の周りの柵のことで、物事の区切りを意味します。これと同じような意味を表すのは、イ「抜き差しならない」で、「どうにもならない」という意味です。ア「鼻持ちならない」は、「言動すべてに嫌味があり、我慢できない」、ウ「腰が重い」は、「なかなか動こうとしない」、エ「気が置けない」は、「気を遣わずに気楽に付き合える」という意味です。
- ③ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
傍線部aの直前に着目します。「中山、いますか？」と繰り返した「ぼく」は、聴覚障がいのために「誤った発音だらけ」である自分の声が「彼女(＝中山の母親)に伝わるはずがな」といって覚悟していたのです。
- ④ ポイント《人物の心情を正しく理解できるかどうか》
「ぼく」が中山の家に来たのは、中山に会って、あさつてのダブルスの試合に出てほしいと伝えたかったからです。「ぼく」が、母親の許可もなく部屋に上がり込んだのは、その思いが強かったからだと考えられます。よって、これに最も近い選択肢ウが正解です。アは「母親に発言させる」、イは「やや気後れ」、エは「母親に同情」がそれぞれ本文の内容と合いません。
- ⑤ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
「ぼく」は、傍線部fの前で「俺ひとりじゃできないんだ、おまえがいなければやらないんだ！俺はおまえと組んで戦うんだ！」と手話で叫んでいます。さらに、傍線部fの少しあとでは「まってる……から……。おまえが……くるのを……まってる、から……。」と必死にこぼを発しています。「ぼく」は、何とかして中山に自分とダブルスを組んで試合に出てほしいと思っているのです。
- ⑥ ポイント《文章の表現や内容を正しく理解できるかどうか》
本文はすべて「ぼく」の視点で出来事が描写されていることに着目しましょう。イは「客観的に」が、ウは「冷静な中山」が、エは『ぼく』のうれしさがそれぞれ本文の内容と合いません。

【出題の意図と対策】

2 説明的文章(論説文)の読解です。論説文は、あるテーマに関する研究内容やデータなどについて、筆者が考えを述べた文章です。ここでは、波平恵美子の『いのちの文化人類学』を題材に、伝統的社会に生きる人々がもっている、いのちについての認識を多くの現代人が失ってしまったというを読み取ります。論説文を読むときには、その文章が何について書かれているかを理解し、そこから筆者がどういう結論や考え方を導き出しているかを読み取るようにしましょう。

【解答】

- ① a 末 b 暖(かい)
- ② c
- ③ X 独立した個別(6字)
- Y 媒介的な(4字)
- Z 遠い先祖(4字)
- ④ 畏敬の念
- ⑤ 例 苦勞を忘れない(7字)
- ⑥ 例 先祖の存在によってもたらされたことを実感できず、遠い先祖とのつながりを認識する手掛かりを見出すこと(49字)
- ⑦ エ

【解説】

- ① b 「温」と書き間違えないように注意しましょう。
- ② ポイント《動詞の活用形の識別ができるかどうか》
A 「調査し」は「調査する」の連用形、B 「見え」は「見える」の連用形、C 「出かける」は「出かける」の終止形、D 「言い」は「言う」の連用形です。
- ③ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
傍線部bの直前に「それ」があることに着目しましょう。「それ」はさらにその前の内容を指しています。「自分の存在を独立した個別のものと考えず、…：遠い先祖と結びつけて認識している。」から指定された字数で抜き出しましょう。
- ④ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
「伝統的社会」の人々がいのちに対して何を感じるかということは、4段落の二文目に「そこ(大分県のムラの人々の桜の例)に見出されるのは、次々と引き継がれてゆくいのちへの畏敬の念であり、それを表現しようとする意志である。」とあるので、ここから指定された字数で抜き出します。
- ⑤ 傍線部eの理由は、その直後に説明されています。「所有者の四代前の十兵衛という人が、毎日の通常の仕事の前後の数時間、早朝と夕方遅く何十年と働き続けてこの田を開墾したことを忘れないために」、個人名が付せられたのです。
- ⑥ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
5段落の内容を中心にとめます。「自分の存在が、限りなくさかのぼることのできる数多くの先祖の存在によってもたらされたものであること」を実感できず、まして「自分と、遠い先祖とのつながりを認識する手掛かりを、…：見出すことは困難になっている」とあります。そのことが、自分のいのちがどのようにして受け継がれてゆくのかを想像する力を私達から奪っていると考えられています。
- ⑦ ポイント《文章の構成と内容を読み取れているかどうか》
本文は1・2で具体的な例(大分県東部の農山村)を説明し、3でそれがどういうことを意味するかを考察し、4では別の例(新潟県東部の山村の十兵衛田)を挙げてその意見を補強し、5で社会の急速な変化により現状がそれと反対の状態であると指摘しています。よって選択肢エが正解です。アは「4」ではまったく反対の例を挙げて」が、イは「3」で具体例を述べ」が、ウは「5」では反対の例を挙げて」がそれぞれ本文の内容と合いません。

【出題の意図と対策】

3

古文とその解説文の読解問題です。ここでは、上田秋成の『雨月物語』について、鈴木健一が解説を書いたものが題材になっています。古文は、かなづかいや表現法が現代文と違い、難解なものに感じられるかもしれませんが、解説をしっかりと読んで設問に答えましょう。

【解答】

- ① やくしたまえ
- ② エ
- ③ 心情が命ずるまま純粹に行動する
- ④ 命を絶ち、魂となり左門のもとへ戻って来た（20字）

【解説】

① ポイント《かなづかいの知識があるかどうか》
歴史的かなづかいの語頭と助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に直します。

② ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
空欄の直前に「濃い人間関係すべてにおいては、相手に愛着を感じて大切なものとして対する一方、その感情が強いあまり束縛してしまい、結果的に自由さや心地よさが奪われてしまう場合もある」とあります。つまり、こうした人間関係にはプラスの側面と同時にマイナスの面もあるということですから、これに最も近い語句としてエが正解です。「諸刃の剣」とは、一方で役に立つが、その一方で自分を危険にさらすことにもなるものを例えたことばです。ア「背水の陣」は「決死の覚悟で物事にあたること」、イ「奈落の底」は「抜け出すことのできない状態」、ウ「世の習い」は「世間にありがちなことや習わし」という意味です。

③ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
傍線部㉔にある「逆」とは、直前の「表面的な辻褃合わせをしてうまく世間を渡っていくだけの賢しらな人間」とは逆であるということに着目しましょう。そのような人間とは逆なのが「おのれの感情の赴くまま突き進んでいく」左門なのです。「おのれの感情の赴くまま突き進んでいく」では指定された字数に合わないのです、さらに読み進めていくと、似たような内容として、傍線部㉔の少しあとに「心情が命ずるまま純粹に行動する」が見つかります。

④ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
最終的に二人がどうなったかは、傍線部㉔の直前の段落に説明されています。約束を守ろうとして宗右衛門がどんな行動をとったかだけでなく、なぜそれが「怪異」ということになるのかに注意してまとめましょう。自刃（＝刃物で自分の命を絶つ）だけでなく、魂（霊）となって左門の前に現れたことも合わせてまとめましょう。

【出題の意図と対策】

4

近年「読む」能力とともに、「話す・聞く・書く」能力の育成に力が入れられています。入試においては、「書く」能力を判定する記述式の問題とともに、スピーチ・発表・話し合いなど、「話す・聞く」能力を判定する会話形式の問題も頻繁に出題されています。スピーチ形式の問題では、スピーチのテーマやスピーチで主張されている意見とともに、問題で用いられている資料の意図も正確に読み取ることが大切です。普段から資料を使った問題などに関心を向けて、その内容や用いられている資料のポイントを頭の中でまとめ取る訓練をするように努めましょう。

【解答】

- ① イ
- ② これは中国の思想家、孔子の言行録である「論語」に収められている有名なことば
- ③ エ
- ④ 例（ことばの「信」というのは）相手に気に入られようと飾り立てる「美」に対して、誠実で信用できることです。例えば、友だちに対して、よいことばかりを言うのではなく、相手のためを思って間違っていることも教えてあげるようなことです。（97字）

【解説】

① ポイント《漢字・書写の知識があるかどうか》
行書の特徴には、筆順の変化、点画の連続、点画の省略、点画の方向や形の変化などがあります。該当の漢字「言」は、楷書に比べて六画目から七画目が連続しています。

② ポイント《意図のわかりやすい文章に直す力があるかどうか》
主語と述語、修飾語と被修飾語など文の組み立てにねじれがないかどうかを捉えます。もとの一文では、「有名な」が「中国の思想家」「孔子」「言行録である『論語』」「ことば」のどれを修飾するのかわかりにくくなっています。問いでは、「巧言令色すくなし仁」ということは自体が「有名だ」ということを正確に伝えるよう指示があります。「ことば」の直前に「有名な」を入れましょう。

③ ポイント《発言の内容を理解できるかどうか》
【石田さんの感想と質問】の一段落目が感想の部分です。宮本さんが「みなさんも、どこかで目にしたことがあるかもしれません、どうでしょうか」と言ったことに対して、共感を示しています。そのあとに、「宮本さんが……増しそう」という、発表で改善した方がよいと思う点を述べています。

④ ポイント《資料を適切に利用して、論理的な文章を書けるかどうか》
まず、【石田さんの感想と質問】の質問の内容を読み取ります。「ことばの『信』とはどういうことか」「ことばの『美』とはどう違うのかを質問しています。次に、条件をしっかりとっておさえましょう。一文目は、「資料㉔資料㉕を踏まえて」、「ことばの『信』の説明を書きます。二つの資料から、「ことばの『美』とは、美しく飾り立てていることや相手に気に入られようとすること」、「ことばの『信』とは、相手に誠実であり、信用できることだとわかります。これを踏まえて、「ことばの『信』と「ことばの『美』の違いを書きましょう。二文目は、「ことばの『信』の具体例（見聞きしたことや体験したこと）を書きます。ここでは、誠実で信用できる発言とはどういうものかを書くこととしましょう。具体例を書くときは、「ことばの『信』が誠実で信用できることと結びついたことばであることを思い出し、例えば、友だちに対してよいこと、褒めるようなことだけを言うのではなく、その子のよくないところや間違っているところも指摘してあげることなどが挙げられます。